

2003

カウンター製作の木材加工法

Woodworking study for the counter

AD 03 安島 峻介
指導教員 小西 均

1.研究目的

木材を主材料とするカウンター制作にあたり、工作の基本作業、構造、および装飾加工技術の修得と制作原価の低減を目標とする設計を思考し、応用として自動車販売店のための木製カウンターを制作する。

2.調査と分析

実際にカウンターを置いている場所・使い方などカウンターの平均的な高さを調べました。主にカウンターを使っている場所は飲食店などで、人との交流が主とされる場所に置かれている事がわかりました。カウンターは場所を取らず、空間を有効に使う事の出来る家具であると、改めて感じました。また平均的なカウンターの高さは人が立って、肘をついた時に楽に体を支えられる高さ(1m前後)が最適な高さだと知りました。現在車屋などでは商談スペースでカウンターよりもテーブルの方が多く使用されている事がわかり、カウンターに装飾があまりされていない事にも興味を持った。

3.コンセプトの立案

カウンターの新しいあり方と制作の合理性を考える。そのため、モニターなど現在の自動車業界で興味の強い物をカウンターに付属して、カウンターそのものが一つの広告となるようにする。そしてカウンターにする事により、店舗内のスペースの有効活用を計る。また、制作費、材料の削減を目標とする。

4.デザイン展開

1. スペースの有効活用と材取り
 - ・店舗内に合ったカウンターの設計
 - ・有効的な材取り
2. フラッシュパネル構造
 - ・安価な木材を合成し強度の強いパネル制作
3. 天板部にモニターを設置
 - ・現在 Luxuryと言われる自動車の装備(モニター)を応用
4. 足元に照明を設置
 - ・天板下からの間接照明で雰囲気を作り出す

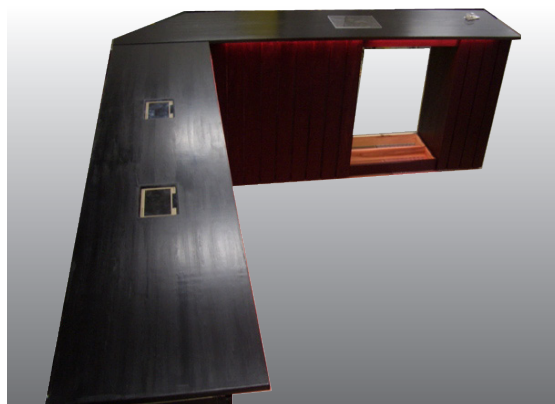
5. 変動可能な棚を設置

・棚の移動を容易に出来るようにし、様々な大きさの収納物に対応出来る。

6. カウンターの強度の強化

・心材を随所にいれることにより、カウンターの安定性を高め、心材を拡散させる事で原価の低減を計る。

5.完成図



6.結論

今回の研究で感じた事は、制作原価を抑える事の大変さに加え強度の構築、フラッシュパネルの制作が大変だった。カウンターの制作・加工をする上で、カウンターを一つ作るのに、こんなにも機械・道具をそれぞれの用途によって使い分けなければならないという事がわかった。しかし、木材は金属と比べ加工方法に柔軟性があったと感じた。そして、制作原価の低減をした中でのカウンターの完成度はとても納得のいく作品に仕上がった。このカウンターが研究だけで終わらず、これからも数多くの人の目にとまり、使用されること、人と人の交流を生み出すことができると確信している。

7.参考文献